45. 放射線検査における検査衣の検討

北海道勤医協札幌病院放射線科

○石井和真, 吉岡恒雄, 藤部静男, 角谷龍治
(Kazuma Ishii) (Tsuneo Yoshioka) (Shizuo Fujibe) (Ryuji Kadoya)三村秀善, 原由佳, 柏樹力, 河津雅志
(Hideyoshi Mimura) (Yuka Hara) (Chikara Kashiwagi) (Masashi Kawatsu)

〔目的〕

現在、我々放射線技師分野では、放射線検査におけるペーシェント・ケアが重要な課題になっている。

従来、当協会では、胸部撮影などの検査では、原則として衣服を脱がせ「裸」で実施していたが現在では、患者の人権を尊重する立場から、ごく一部の検査を除いて検査衣を着用させて検査を行っている。

しかし、検査衣を着用させることは、同時に、検査衣による障害陰影がX線写真上に現れ読影上重要な問題が生じている。特に胸部撮影においては、検査衣による線状陰影が診断上障害となっている。今回我々は、撮影手技が容易で障害陰影のない検査衣を作製するために種々の布地を使用して、検査衣に適した布地とデザインについて検討したので報告する。

〔布地の種類と実験方法〕

1. 布地の種類

- ①毛 100% ②ポリエステル 100% ③キュブラ 100%
- ④綿 100% (シャークスキン) ⑤綿 100% (ブロード)
- ⑥レーヨン90% + 毛 10% ⑦綿52% + 麻48%
- ⑧当院使用検査衣A ⑨当院使用検査衣B

⑩バスタオル

※⑧⑨は従来の材質のもの

2. 実験方法

- ①各種布地に作為的にシワを作り、水ファントームのフィルム側（圧着状態）と管球側（非圧着状態）に置き撮影し、障害陰影の程度について調べた。

※圧着状態～シワを押し潰した状態

※非圧着状態～ふわりとしたシワの状態

- ②従来の検査衣をもちいたボランティアによる同様の調査を行った。

〔実験結果〕

- ①障害陰影は材質の影響は受ないが、布地の厚さの影響が大きい。
- ②押し潰されたシワよりもふわりとしたシワの方が障害陰影を作る。

〔結論〕

- ①患者の人権を守る意味でも検査衣の着用が望ましい。
- ②検査衣の布地は薄いものが望ましい。
- ③胸部撮影においては、管球側に布地のない前掛け型が適している。
- ④X線TV使用の検査においては、ワンピース型が適している。

〔考察〕

今回の実験では布地の材質の違いについて同定はしなかった。それは、検査衣を作製する場合市販されている布地を使用するため、布地の厚さを一定にすることが出来ないからである。しかし、今回の実験の評価では、材質の違いはほとんど問題ないと考ええる。

また、今回の実験の使用管電圧は、実験①では80KVを使用し、実験②では130KVを使用した。この電圧は一般撮影及び高圧撮影の標準的な電圧と考えた。